結晶化学講義

2020/4/3 神谷利夫



スライドを見た瞬間に一番伝えたいことが 分かるように

- タイトルは必要かつ簡潔に(共通のことは書かない)
- ・できる限り大きく(無駄な空白を作らない)
- ・できる限り

 文字は少なく

 (余計なことは書かない)
- 説明は上から下、左から右へ
 図表の説明は上
- ・ 色文字を使いすぎない: せいぜい4色(黒を含む)
- <u>濃い色</u>を使う:

黄色、緑色はプロジェクターによっては見えない

・きれいさよりも分かりやすさ



CIFフォルダーに入っている以下の結晶について、 CIFファイルとVESTAを使って以下のことを確認し、 PowerPointのプレゼンテーションファイルにして提出 期限:今日の17:00までにできたところまでで可

- BaTiO₃にはいろいろなCIFファイルがある。 それぞれの構造の特徴がわかる絵を書くとともに、 格子定数の関係を述べよ。 立方晶BaTiO₃について、結合距離とイオン半径の関係を表 にせよ。
- LaCuOSeとBaFe₂As₂の結晶構造について、特徴がわかる絵 を書き、類似点、相違点を述べよ。 また、結合距離とイオン半径の関係を表にせよ。
- 3. SnSとSnOの結晶構造について、特徴がわかる絵を書き、類 似点、相違点を述べよ。 また、結合距離とイオン半径の関係を表にせよ。

宿題

CIFフォルダーに入っている以下の結晶について、 Bond valence sumを計算し、それぞれの結晶中の BVSを比較せよ。 PowerPointのプレゼンテーションファイルにして提出 期限:今日の17:00までにできたところまでで可

- 1. 立方晶BaTiO₃と六方晶BaTiO₃
- 2. LaCuOSe, LaFeOP, BaFe₂As₂
- 3. β -Ga₂O₃
- 4. Fe₃O₄

電気伝導度



機能材料研究の考え方: 一例

- 1. どんな機能がほしいか 例:電気が良く流れる材料 =>電気伝導度σが高い
- σはどのように決まっているか
 σ=enµ: 移動度µかキャリア濃度nが大きい
- 移動度µはどのように決まっているか µ=eτ/m*: 有効質量m*が小さいか 散乱時間τが長い
- 4. 有効質量m*はどのように決まっているか 隣の原子(イオン)との波動関数の重なりが 大きいほど小さい
 - => 金属イオン間の距離が近い

原子間距離と波動関数

ー どれだけ原子(Na)が近づいたら電子が流れられるか -



どうしたらイオン間距離を小さくできるか

イオンの位置、イオン間距離は結晶構造で決まっている

- 結晶構造は化学組成だけでは決まらない 化学組成が同じでも結晶構造が違うものがある <u>多形(polymorph)、多型(polytype)</u>
- 少し化学組成をずらすと、結晶構造を変えられること がある
- ※いいかげんな結晶構造は作れない
- => でたらめに化学組成を変えても時間の無駄
- ・化学組成と結晶構造はどのような関係があるか?
- ・どのような結晶構造ならイオン間距離が小さくなるか?

多形の例:同じ化学組成でも構造・物性が違う

ルチル バンドギャップ ~3.0 eV (413nm) 誘電体(セラミックスコンデンサー)

アナターゼ バンドギャップ ~3.2 eV (387nm) 光触媒



多形の例:同じ化学組成でも構造が違う NaCl NaCl型構造(常圧相)

Cl Va

CsCl型構造(高圧相)



Q: なぜNaCI型構造が常圧で安定か? なぜ高圧でCsCI型構造が安定か?



Q: なぜNaClはNaCl型構造が安定か? なぜCsClはCsCl型構造が安定か?



結晶構造の安定性を直観的な規則で まとめた経験科学

- ・半径比則 : 剛体球の稠密パッキング
- ・ポーリング則: イオン間の静電エネルギー

ただし例外も多い

 ・実際の例は、結晶構造データベースを 使って調べる

Inorganic Crystal Structure Database: ICSD

結晶格子と単位格子

格子: 周期的に繰り返す構造 結晶: 格子に原子団を配置したもの 「格子点」に原子がある必要はない



子. 図 2-1 点 格



図 2-2 単位格子.

格子 + 原子修飾 = 結晶



面心立方格子 + NaCl分子 = NaCl結晶

面心立方格子 + NaCl分子 = NaCl結晶



結晶構造の定義:単位格子で十分

- 面心立方格子 + NaCl分子 = NaCl結晶
 晶系、格子定数 原子の内部座標
 ・面心立方晶 ・ Na (0, 0, 0)
 - a = b = c = 0.562 pm Cl (1/2, 0, 0)



NaClのCIFファイル

data_18189-ICSD	_refine_ls_R_fa	ctor_all 0.022	
#c2004 by Fachinformationszentrum Karlsruhe, and the U.S. Secretary of	loop		
#Commerce on behalf of the United States. All rights reserved.	symmetry equiv pos site id		
database_code_ICSD 18189	symmetry equiv pos as xyz		
audit creation date 1980/01/01	1	'z, y, -x'	
audit update record 1999/06/02	2	'y, x, -z'	
chemical name systematic 'Sodium Chloride'	3	'x, z, -y'	
chemical formula structural 'Na Cl'	4	'z, x, -y'	
chemical formula sum 'Cl1 Na1'	5	'y, z, -x'	
chemical name mineral Halite	6	'x, y, -z'	
publ section title	(途中省略)		
	192	'x+1/2, y+1/2, z'	
Accuracy of an automatic diffractometer. Measurement of the sodium			
chloride structure factors	loop		
;	atom type syn	nbol	
loop	atom type oxidation number		
citation id	Cll-	-1	
citation journal abbrev	Na1+	1	
citation year			
citation journal volume	loop		
citation page first	atom site label		
citation page last	atom site type symbol		
citation journal id ASTM	atom site symmetry multiplicity		
primary 'Acta Crystallographica (1,1948-23,1967)' 1965 18 926 932 ACCRA	A9 atom site Wvo	ckoff symbol	
loop	atom site frac	t x	
publ author name	atom site fract v		
'Abrahams, S.C.'	atom site fract z		
'Bernstein, J.L.'	atom site occupancy		
cell length a 5.62	atom site attached hydrogens		
cell length b 5.62	atom site B is	so or equiv	
cell length c 5.62	Na1 Na1+ 4 a 0	0 0 1. 0 1.689(24)	
cell angle alpha 90.	Cl1 Cl1- 4 b 0.5	0.5 0.5 1.0 1.357(17)	
cell angle beta 90.			
cell angle gamma 90.	#End of data 18	189-ICSD	
cell volume 177.5	_		
cell formula units Z 4			
symmetry space group name H-M 'F m -3 m'			
symmetry Int Tables number 225			

7つの晶系とBravais格子

表 7つの晶系と対称性の条件。

晶系	対称要素	ブラベー格子の格子定数		空間格 子	結晶点群		ラウエ群	b
		必要条件	命名の 約束		対称心 なし	対称心 あり	А	¥
三斜晶(triclinic)	1回軸(対称性 なし) または 1回回反軸(反 転)		c <a<b α≥90° β≥90°</a<b 	Р	1	ī	ī	図
単斜晶 (monoclinic) (第 2 種) (第 1 種)	2回軸または 2回回反軸	α=γ=90° α=β=90°	c <a, β≥90°</a, 	P, C ** P, B	2, m	2/m	2/m	
斜方晶 (orthorhombic) (直方晶とも呼 ばれる)	直交する 3つの2回軸 または2回 回反軸	α=β=γ=90°	c <a<b< td=""><td>P, C (A, B) F, I</td><td>222, mm2</td><td>mmm</td><td>mmm</td><td>1</td></a<b<>	P, C (A, B) F, I	222, mm2	mmm	mmm	1
正方晶 (tetragonal)	4 回軸または 4 回回反軸	a=b $\alpha=\beta=\gamma=90^{\circ}$		P, I	$4, 422, \overline{4}$ $4mm,$ $\overline{4}2m, \overline{4}m2$	4/m, 4/mmm	4/m, 4/mmm	c
六方晶 (hexagonal)	6回軸または 6回回反軸	a=b α = β =90° γ =120°		Р	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	6/m, 6/mmm	6/m, 6/mmm	単純正
三方晶(trigonal) (菱面体晶 (rhombobedral))	3 回軸または 3 回回反軸	a=b $\alpha = \beta = 90^{\circ}$ $\gamma = 120^{\circ}$ (a=b=c $\alpha = \beta = \gamma$)****		P (R)	3, 321, 312,3m1, 31m	$\overline{3}$, $\overline{3}m1$, $\overline{3}1m$	$\frac{\overline{3}, \overline{3}m1}{\overline{3}1m}$	
立方晶(cubic)	立方体体対角 方向の 4つの3回軸 または3回 回反軸	a=b=c $\alpha=\beta=\gamma=90^{\circ}$		P, F, I	23, 432, 43m	m3, m3m	m3, m3m	一 面

*菱面体格子をとれる三方晶格子を特に菱面体結晶(rhombohedral)と呼ぶ





図2.5 非単純格子と単純格子との関係.





面心立方 (F)

単純正方 (P) 体心正方 (I) 単純直方 (P)





六 方 (P)

体心直方 (I)

VESTA: Ball-and-stick view



Ball-and-stick view: 化学結合を表示



Space-filling view



Polyhedral view (化学結合を定義する必要)



Wire frame view (化学結合を定義した場合)



Stick view (化学結合を定義した場合)







イオン間距離: Manipulation => Distance



結合角度: Manipulation => Angle



原子半径? イオン半径?

Properties => Atomsタブ

Radii type: Atomic (原子半径) Ionic (イオン半径)



イオン半径は Na⁺ が小さく、CF が大きい

金属と酸化物の結晶構造



半導体の結晶構造



ウルツ鉱構造 GaN ZnO







無機結晶の結晶構造



半導体の結晶構造



ウルツ鉱構造 GaN ZnO







酸化物半導体の結晶構造

共有結合性半導体

Si, C, Ge GaAs, InP









ナノ構造を持つ無機結晶



WO₃

C12A7







結晶とアモルファス

結晶InGaZnO₄ (IGZO)

アモルファスInGaZnO₄





原子、イオンは互いに接触して 安定な構造を作る

接触していないと、どこかに偏って 他の原子・イオンに接触することで安定化する

=> 歪んだ構造不規則構造
立方最密構造 (CCP): Al, Cu, Pd, Ag, Pt, Au

Cubic closed packing 面心立方構造 (Face centered cubic: FCC)



Al (FCC)



六方最密構造 (HCP): Mg, Co, Zn, Y, Zr, Cd

Hexagonal closed packing: HCP

実際には最密パッキングにならないので、 六方稠密構造と呼ぶ場合もある



Mg(HCP)



剛体球原子のパッキング

正方パッキング:最密ではない 六方パッキング:2次元最密充填

二段目の最密パッキングの仕方は2種類ある



AB積層構造



AC積層構造

最密充填構造における隙間の構造





体心立方構造 (BCC): Na, K, Rb, Cr, Fe, Nb Body centered cubic: BCC



最密充填構造ではない => 密度が低い

単純立方構造 (SC): Po

Simple cubic: SC



単純な構造ではもっとも密度が低い 金属では珍しい

イオン性結晶の構造の理解の仕方

原子、イオンは互いに接触して 安定な構造を作る

酸化物: 陽イオンと陰イオンから構成 イオン半径(陽イオン) << イオン半径(陰イオン)

1.陰イオンが接して安定な構造を考える
 2.陽イオンが陰イオンに接して安定な構造を考える
 3.静電エネルギー的に安定な構造を考える

どこに隙間があるか?



岩塩型構造: MgO, BaO, FeO, NiO, LiF



MgとOの立方最密格子が (1/2,0,0) ずれて重なった構造 陽イオンと陰イオンが交互に並んだ構造

> ・酸素イオンは立方最密充填 ・陽イオンはFCCの6配位位置を占める

・陽イオンは立方最密充填 ・酸素イオンはFCCの4配位位置を占める

ダイヤモンド構造(閃亜鉛鉱型構造)に似ているが、 第二の原子は単純立方配置





蛍石型構造: CaF₂, CaBr₂, PbF₂, CeO₂

ダイヤモンド構造: C, Si, Ge



- ・閃亜鉛鉱型構造の陽イオン、陰イオンを
 同じにした構造
- ・立方最密構造を (1/4, 1/4, 1/4) ずらして重ねた構造

ダイヤモンド構造・閃亜鉛鉱型構造

ダイヤモンド構造: C, Si, Ge 閃亜鉛構造 : GaAs, GaP



ダイヤモンド構造・閃亜鉛鉱型構造



閃亜鉛鉱型(Zinc blend)構造: ZnSe, BN, GaAs



・陰イオンは立方最密充填 ・陽イオンはFCCの4配位位置を占める

ウルツ鉱型構造: ZnO, AIN, GaN, BeO



閃亜鉛鉱型構造に似ているが、 陰イオンの積層構造が異なる

・陰イオンは大方最密充填
 ・陽イオンはHCPの4配位位置を占める

塩化セシウム型構造: CsCl, CsI, TICl, TIBr



・体心立方構造の中心が陽イオン
・陰イオンは最密充填構造ではない
・陽イオンは8配位位置を占める

ルチル型構造: TiO₂, SnO₂, CrO₂, IrO₂



・陽イオンは6配位位置を占める ・陰イオンは3配位



・大きさが異なる 2種類の陽イオン
・大きい陽イオン (Aサイトイオン) は 12配位
・小さい陽イオン (Bサイトイオン) は 6配位
・酸素イオンは 2配位
=>Aサイトイオンと酸素イオンがFCC構造

ペロブスカイト型構造: Tolerance factor

Aサイトイオン: イオン半径 r_A Bサイトイオン: イオン半径 r_B 酸化物イオン: イオン半径 r_O



立方晶ペロブスカイトの場合:

$$a = \sqrt{2} \left(r_A + r_O \right) = 2 \left(r_B + r_O \right)$$

で 各イオン同士が接触する

$$t = \frac{r_A + r_O}{\sqrt{2}(r_B + r_O)}$$

を Goldschmidt tolerance factorと呼び、 ペロブスカイト構造が歪む指標となる

t	Lattice	Explanation	Example
>1	Hexagonal	Large $r_{\rm A}$ Small $r_{\rm B}$	BaNiO ₃
0.9-1	Cubic	Ideal contact	SrTiO ₃ , BaTiO ₃
0.71 - 0.9	Orthorhombic Rhombohedral	Small r_A in B ion interstitial	GdFeO ₃ (Orth.) CaTiO ₃ (Orth.)
<0.71	Different structures	Samll $r_{\rm A}, r_{\rm B}$	FeTiO ₃ (Tri.)

BaTiO₃(ペロブスカイト型)



コランダム型構造: Al₂O₃, Cr₂O₃, Ga₂O₃, Fe₂O₃



・陽イオンは6配位

• (AIO₆) 多面体は面を共有してつながっている

Al₂O₃(コランダム型, Corundum)





Aサイトイオンは4配位。
配置はテトラポッド型に4箇所
Bサイトイオンは6配位。2組ずつ4箇所
(BO₀)多面体同士は稜共有構造。
(AO₄)多面体と(BO₆)多面体同士は頂点共有

スピネル型構造: MgAl₂O₄, Fe₃O₄, SnZn₂O₄













 ペロブスカイト型構造からAサイトイオンが 抜けた構造
 結晶構造中に1Å以上の穴が空いている

C型希土類構造: In_2O_3 C希土類型構造 Ca 蛍石型構造 OR 0

・酸素欠損のある2×2×2蛍石型構造
 ・bixbyite [(Mn,Fe)₂O₃] 型構造とも呼ばれる

C型希土類構造: In₂O₃



 酸素欠損のある2×2×2蛍石型構造 蛍石型 : MX₂ で陽イオンMは八配位 C希土類型: M₂X₃で陽イオンMは六配位



・酸素欠損のある2×2×2蛍石型構造
 ・ 歪んだ (InO₆) 八面体の稜共有構造



もう一度ウルツ鉱型構造: ZnO, AIN, GaN, BeO



ZnO結晶はZnO₄四面体が 頂点でつながってできている (頂点共有構造)







BaTiO₃

ペロブスカイトABX₃の場合、Aサイトの配位多面体は描かないことが多い 原子の種類は、球の色に合わせて明示する


BaTiO₃



BaTiO₃

六方晶

角度をうまく合わせると、 (TiO₆) 八面体が頂点共有して 面を作っている構造がわかる。 (TiO₆) 八面体が面共有している 構造もある (BaO_n)多面体だけ表示させ、 A軸方向の表示範囲を拡大すると、 (BaO₁₂)多面体が面共有でブロックを 作っていることがわかる



LaCuOSe

表示範囲をうまく調整すると、 LaO層は、Oを中心とした 層状構造がわかりやすいくなる (OLa4)多面体を描くとわかりやすい。 VESTA: Edit => bondsで、 Boundary - LaCuOSe.cif Х Oを左、Laを右の原子にすると、 2 undefined Phase: 1 v 多面体の中心がOになる Ranges of fractional coordinates x(min) = 0x(max) = 1.5 多面体表示では y(min) = 0y(max) = 1.5(LaO₄Se₄)多面体は z(min) = -0.2 z(max) = 1.2 表示しないことが多い。 Cutoff -lana a No. < Bonds - LaCuOSe.cif Cu 0 un Phase: Search bonds and atoms Search mode Search A2 bonded to Search atoms bonde Search molecules Search by labe A1: La New Atom 1 Atom 2 Min. (Å) Max. (Å) Poly. No. Bound. 2.76295 2 \checkmark Cm Se Clear Cancel Apply

LaCuOSe & BaFe₂As₂



SnO & SnSe



半径比則: 陽イオンの配位数を決める



陽イオンの配位数は、陰イオンに接触するように決まる

- ・陰イオンの配位数が大きくなるほど陽イオンは大きくなれる
- ・配位数が3,4,6,8,12と増えるに従い、陽イオン/陰イオン半径比は
 0.155,0.255,0.414,0.732と大きくなる。
- 中間のイオン半径比の場合は、陰イオン同士の距離を広げても 陽イオンと陰イオンが接触するように配位数が決まる

イオン半径の標準

イオン半径は既知の結晶構造から決定 ・経験パラメータ: いろいろな値が提案されている Shannonの有効イオン半径が最も広く使われている

(Shannon, Prewitt(1969,70)

R.D. Shannon, Acta Crystallogr., Sect. A, 32, 751 (1976))

族 周期	Ia	IIa	IIIa	IVa	Va	VIa	VIIa		ΥШ		Ib	IIb	IIIb	IVb	Vb	VIb	VIIb	0
1	H 1+ī-38 ī-18	http://home.hiroshima-u.ac.jp/er/Min_G2.html											He					
	Li	Be	1	オンキ	≦径判	lonRa	dius2	.html				_	в	с	N	0	F	
2	1+ r√59 ∨r74	2+ī∨27 ∨ī <i>35</i>											3+⊞2 №12	4+ Ⅲ-8	3–īv146 5+≣-12		1− π130 ∨ 133	Ne
	Na	Mg											AI	Si	Р	S	CI	
3	1+∨ɪ102, ∨π116	2+vī72.0											3+⊮39 ∀153.0	4+ī∨26 ∨ī40.0	5+ ⊮ 17	2− ∨i <i>184</i> 6+i∨12	1- vi <i>181</i> 7+iv 8	Ar
	к	Ca	Sc	Ti	v	Cr	Mn	Fe	Co	Ni	Cu	Zn	Ga	Ge	As	Se	Br	
4	1+vī138 vπī151 ×π160	2+vɪ100 ∨ ⊞112	3+∨ī74.5 ∨⊞87	3+∨ī67 4+ ∨ī 60.5	2+vī79 3+ vī64.0	2+vī82 3+vī61.5 6+īv30	2+∨ī83.0 ∨īī93 3+∨ī 64.5 4+∨ī54.0	2+vi78.0 3+iv49 vi64.5	2+∨ī74.5 3+∨ī61	2+∨ī69.0	2+ Ivsq62 v173	2+ī∨60 ∨ī75.0	3+i∨47 ∨ī62.0	4+i∨40 ∨ī54.0	3+ ∨ɪ58 5+ɪ∨ 33.5 ∨ɪ50	2− ∨1 <i>198</i> 6+I∨29	1– vi <i>196</i> 7+iv26	Kr
	Rb	Sr	Y	Zr	Nb	Mo	Тс	Ru	Rh	Pd	Ag	Cd	In	Sn	Sb	Те	I	Xe
5	1+ vī152 xīī172	2+ ∨ī113 ∨⊞125	3+∨190.0 ∨⊞101.5	4+ ∨ī72 ∨īī84	5+ √164	6+∨ī60	4+v164	3+v168 4+v162.0	3+∨166.5 4+∨161.5	2+v186 4+v162	1+∨ī115 ∨ī±130	2+ ™80 √195	3+∨ī80.0	4+∨ī69.0	5+ ™61	4+v197 6+ v1 <i>56</i>	1− ∨ī <i>220</i> 7+∨ī53	8+IV40 VI48

イオン半径に見られる一般的な法則

- 1. 化学的に類似したイオンの半径は原子番号とともに増大する。
- 2. 同じ周期に属する陽イオンの系列では、その半径はイオンの 電荷の増加とともに急速に減少する。

・電子数が少なくなるため
 ・陰イオンとの引力が増大して結合距離が小さくなるため

- 3. 同じ周期に属する陰イオンの系列では、その半径は負の電荷が増加するにつれて増大する。
- 4. 同じ周期のランタニドまたは希土類元素の系列では、イオン半径は原子番号の 増加とともに減少する(ランタニド収縮)
 - f電子の密度が外殻電子よりも内側に存在するため、核電荷が増えるに従い、
 外殻電子の半径が小さくなるため
- 5. 多くの陽イオンの半径は 1Åよりかなり小さい。
- 6. 多くの陰イオンの半径は 1Åよりもかなり大きい。
 ★重要★ O²⁻: 1.40Å

イオン半径に見られる一般的な法則

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	H 1	典型非金属元素													小			
2	Li	Be						典	型金	属元素	秦		B	C	Ν	0	F	Ne
	3 No	$\frac{4}{M\sigma}$			3、治6	11.		遷移金属元素					5 A1	6 Si	7 D	8 6	9 Cl	10 A r
3				Ĩ	忌	に小							A	14	1 15	16	17	18
4	K	Ca	Sc	Ti	V	Cr	Mn	Fe	Со	Ni	Cu	Zn	Ga	Ge	As	Se	Br	Kr
	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
5	Rb	Sr	Y	Zr	Nb	Mo	Tc	Ru	Rh	Pd	Ag	Cd	In	Sn	Sb	Te	Ι	Xe
	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	<u>52</u>	53	54
6	Cs	Ba	*Ln	Hf	Ta	W	Re	Os 7	Ir	Pt 79	Au	Hg		Pb	Bi	Po	At	Xe
	<u> </u>	50		12	/3	74	/5	/0	11	/ð	- 19	80	61	82	83	84	60	80
7	Fr 97		** <i>Ac</i>	Rf	Db	Sg	Bh	Hs	Mt	Ds	Rg	Cn			Uup			
	0/	00		104	105	100	107	100	107	110	111	112	115	114	115		117	110
▼大 小 ▼大																		
*Lonthonido La Ce Pr Nd Pm Sm Eu Gd Tb Dy Ho Er Tm Yb Lu									Lu									
57 58 59 60 61 62 63							64	65	66	67	68	69	70	71				
**	Actin	ide _	Ac	Th	Pa	U	Np	Pu	Am	Cm	Bk	Cf	Es	Fm	Md	No	Lr	
	Actil	nue	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	

陽イオン価数 大: イオン半径 小 (電子数小) 陰イオン価数 大: イオン半径 大 (電子数大) 配位数 大 : イオン半径 大 (陰イオン同士の反発) 圧力 大 : 相対的に陰イオン半径 小 (陰イオンは大きくて柔らかい)

イオン半径からわかること

化学結合の描き方: 陽イオンを中心に、だいたい 3Å 以内の結合を描く



イオン半径からわかること

注意: 最短結合を見落とす可能性がある=>単位格子よりも大きく描く

💑 LaCuOSe.cif - VESTA	Itilities Help	イオン (配位数	() イオン半径(Å
a b c a* b* c*	$\land \lor \checkmark \lor \checkmark \lor \checkmark \lor $ Step (deg.): 45.0 $\land \lor \lor \leftrightarrow $ Step (px): 10 $+ -$	La ³⁺ (VIII)	1.16
Structural model	NaCI-CsCI.vesta NaCI.cif LaCuOSe.cif	Cu ²⁺ (IV)	0.62
Style Ball-and-stick		O ²⁻ (VI)	1.4
 Space-filling Polyhedral Windowski 		Se ²⁻ (VI)	1.98
O Wireframe	La		
Volumetric data			結合長(Å)
Show isosurfaces Surface coloring Style	O OOCU	La-O	2.38
 Smooth shading Wireframe 		La-Se	3.33
Properties		Cu-Se	2.52
Boundary Orientation		0-0	2.88
Rotate Select Magnify Distance		Se-Se	4.07
O Translate O Angle		Cu-Cu	2.88
Drag 💙 Free rotation 💙	72 atoms, 96 bonds, 24 polyhedra; CPU time = 0 ms	La-La	4.07
	Output Comment		

イオン半径からわかること

	結合長(Å)	計算値(Å)	偏差(%)
La-O	2.38	2.56	-7.7
La-Se	3.33	3.14	5.6
Cu-Se	2.52	2.6	-3.1
0-0	2.88	2.8	2.6
Se-Se	4.07	3.96	2.6
Cu-Cu	2.88	1.24	56.9
La-La	4.07	2.32	43.0

- **O-O**, **Se-Se**, **Cu-Se** 距離はイオン半径で説明できる
- ・La-O 距離はイオン半径より小さい
- Cu-Cu, La-La 距離はイオン半径よりはるかに大きい
- ・La-Se 距離はイオン半径より5%以上大きい

イオン半径からわかること

- ・O-O, Se-Se 距離はイオン半径の和に等しい 「イオン結晶中では、陰イオン同士は接触している」
- ・Cu-Cu, La-La 距離はイオン半径よりはるかに大きい 「陽イオン同士は接触していない」
- ・Cu-Se 距離はイオン半径の和に等しい 「陽イオンは陰イオンと接触している」
- ・La-O 距離はイオン半径より小さい イオン半径の前提が悪い?
- ・La-Se 距離はイオン半径より5%以上大きい

イオン結合より弱い結合

=> La-O層とCu-Se層は弱い結合で結ばれている LaCuOSeは化学結合的にも層状結晶である

イオン半径に見られる一般的な法則

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	H 1		_					典型	非金属	属元素	5				大	Ň		He 2
2	Li 3	Be 4	× ۲					典型:	金属元	記素			5 5	6 6	$_{7}^{\mathrm{N}}$	0 8	F ۹	Ne 10
3	Na 11	Mg 12			急激	に小		遷移:	金属刀	口茶			A1	Si 14	Р 15	S 16	Cl 17	Ar 18
4	K 19	Ca 20	S c 21	Ti 22	V 23	Cr 24	Mn 25	Fe 26	Co 27	Ni 28	Cu 29	Zn 30	Ga 31	Ge 32	As 33	Se 34	Br 35	Kr 36
5	Rb 37	S r 38	Y 39	Zr 40	Nb 41	Mo 42	Tc 43	Ru 44	Rh 45	Pd 46	Ag 47	Cd 48	In 49	Sn 50	Sb 51	Te 52	I 53	Xe 54
6	Cs 55	\mathbf{Ba}_{56}	*	Hf 72	Ta 73	W 74	Re 75	Os 76	Ir 77	Pt 78	Au 79	Hg 80	T1 81	Pb 82	Bi 83	Po 84	At 85	R n 86
7	Fr 87	Ra 88	**	Rf 104	Db 105	Sg 106	Bh 107	Hs 108	Mt 109		小					/大		
	* ランタ	マノイド	La 57	Ce 58	P r 59	Nd 60	Pm 61	Sm 62	Eu 63	Gd 64	Tb 65	D y 66	Ho 67	Er 68	$\mathop{\mathrm{Tm}}_{69}$	Yb 70	Lu 71	
	陽イ	オン	価数	大 =	=>	イオ	ン半行	径小	(電·	子数	小) 十)							1
	候1 配位	オノ 【数 フ	」 単致 大	- 人 (- -	-> =>	17. イオ	ノギャンギャ	医人 径大	(电 (陰	_丁 致 イオ:	へ) ン同:	±の	反発)				
	圧力	」大		=	=>	相対	的に	陰イ	オン	半径	小(陰イ:	オン	は大き	きくて	柔ら	かい	•)

イオン結晶の基礎の基本

- ★ 原子、イオンは互いに接触して安定な構造を作る
- ★ LaCuOSeの構造から学んだこと
 - ・O-O, Se-Se 距離はイオン半径の和に等しい 「イオン結晶中では、陰イオン同士は接触している」
 - ・Cu-Se 距離はイオン半径の和に等しい 「陽イオンは陰イオンと接触している」
 - ・酸素イオンは最密充填に近い構造をとる
 ・陽イオンは酸素イオンの隙間に入る

イオン結晶の基礎

★ 原子、イオンは互いに接触して安定な構造を作る

- 1. 一般に、陰イオンのほうが陽イオンより大きい 陰イオン同士は互いに接して最密充填に 近い構造を取ることが多い
- 2. 陽イオンは陰イオンがつくるパッキング構造の 隙間に入り、陰イオンと接する
- 3. 陽イオン同士は接しない
- 4. イオン性結晶の最近接イオン間距離は イオン半径の和でだいたい説明できる

ポーリング則:イオンの安定配列を決める

イオン結晶に共通して見られる特徴

- 陽イオンの最近接位置には必ず陰イオンが配位している。
- ・ $M_{\rm m}X_{\rm n}$ 型化合物では、陽イオン $M^{\rm n+}$ の周りの陰イオンの配位数 $N_{\rm M}$ と 陰イオン $X^{\rm m-}$ の周りの陽イオンの配位数 $N_{\rm X}$ は $N_{\rm M}: N_{\rm X} = {\bf n}: {\bf m}$ になっている。

ポーリングの法則

- 陽イオンの配位数は陽イオンと陰イオンの半径比 R_A/R_Xによって決まる。
 (半径比則)
- ・ 配位多面体の陰イオンとそのまわりのすべての陽イオンをつなぐ結合の強度の和が、 陰イオンの電荷の総計に等しい。陰イオンの電荷を-me、その周囲の陽イオンの電荷 $e_{n_i e}$ 、配位数を N_{M_i} とすれば、次の関係が成立する。 (静電原子価則:局所的な電荷中性条件) $m = \sum_i n_i / N_{X_i}$
- 稜共有構造は不安定で、面共有構造は極めて不安定である。
- 種々の陽イオンを含む結晶では、原子価が大きく配位数の小さい陽イオンの多面体同 士が、面、稜、頂点を共有することはほとんどない。
 (陽イオン同士の距離が近くなり、静電ポテンシャル的に不安定になる)
- 結晶内で化学的に同等な陰イオンは、その周囲の状態をできるだけ同等にする傾向 がある。

(異なる成分の数ができるだけ少ない配列をとる=>似たイオンは似た構造をとる)

半径比則: 陽イオンの配位数を決める



陽イオンの配位数は、陰イオンに接触するように決まる

- ・陰イオンの配位数が大きくなるほど陽イオンは大きくなれる
- ・配位数が3,4,6,8,12と増えるに従い、陽イオン/陰イオン半径比は
 0.155,0.255,0.414,0.732と大きくなる。
- 中間のイオン半径比の場合は、陰イオン同士の距離を広げても 陽イオンと陰イオンが接触するように配位数が決まる

単純化合物の結晶構造は限定される

組成が<u>Mⁿ⁺ X^{m-}</u>の場合 イオン電荷 Z_{M} : Z_{N} = n:m(結晶の電荷中性条件) 配位数 $N_{\rm M}: N_{\rm N} = n: m = Z_{\rm M}: Z_{\rm N}$ (局所電荷中性条件) 単純酸化物の結晶構造は 陽イオンの価数によって限定される 陽イオンの価数 組成 代表的な結晶構造 M₂O 逆蛍石型 1+ MO NaCl型, CsCl型, NiAs型 2 +閃亜鉛鉱型 ウルツ鉱型 M₂O₂ コランダム型,イルメナイト型 3 +MO₂ ルチル型,アナターゼ型, 蛍石型 4 +酸化レニウム型 MO_3 6+ これ以外のより複雑な構造をとるものは多いので、

あくまでも基礎知識として覚えておく

静電原子価則の確認: TiO₂

考え方: イオンがもつ電荷は 配位している結合毎に等分配されて寄与する(結合原子価)

$$m = \sum_{i} n_i / N_{X_i} = n N_M / N_X$$

陰イオンの電荷 :-*m* = -2 陰イオンの配位数: *N*_M = 3 陽イオンの電荷 :*n* = +4 陽イオンの配位数: *N*_X = 6 右辺 = 4 * 3 / 6 = +2 = *m*



当然、逆の関係(陽イオンを中心に考える)も成立する

$$n = \sum m_i / N_{M_i} = m N_X / N_M$$

単純化合物の場合、これは結晶全体の電荷中性条件と同じ

$$nN_{M}=mN_{X}$$

易イオンの全電荷 陰イオンの全電荷

結合原子価和 (Bond valence sum)

ポーリングの第二法則:結合原子価和

$$m = \sum n_i / N_{X_i} = n N_M / N_X$$

は中心イオンの価数に等しい



BV: 結合原子価和 $BV = \sum_{i} \exp\left(\frac{r_0 - r_i}{R}\right)$ BV: 福日原丁间和 B: (結合イオン対で決まる)定数 0.37 r_0: 結合イオン対で決まる定数 r_i: 結合長

r₀(, B)の値は中井泉,泉富士夫編集,粉末X線解析の実際,付録3,朝倉書店 R.E. Brese, M.O'Keeffe, Acta Crystallogr., Sect. B, 47, 192 (1991) I.D.Brown: http://homepage.mac.com/fujioizumi/rietan/book/book.html#BVP

LaCuOSeの例:

La: $4 \times La-O(0.54) + 4 \times La-Se(0.20) = 2.97$ O: $4 \times O-La(0.54) = 2.16$ Cu: $4 \times Cu$ -Se (0.34) = 1.36 Se: $4 \times Se$ -La (0.20) + $4 \times Se$ -Cu (0.34) = 2.18



1. 各原子対のパラメータを vbparam2009.cif から読み取る。

loop_

_valence_param_atom_1

_valence_param_atom_1_valence

•••

_valence_param_details

Ac 3 O -2 2.24 0.37 b ?

左から、原子1 原子1の価数 原子2 原子2の価数 r0 B 参考文献 参考文献は cifファイルの最初の方に記号と一緒にまとめらており、上記の各行にはその記号が示されています。

2. La-Oの例

La 3 O -2 2.172 0.37 a ?

La 3 O -2 2.172 0.33 ac ?

La 3 O -2 2.148 0.37 ae 'from transition metal complexes'

と、3種類あり、計算結果は若干異なります。

6番目に参考文献の記号 (a, ac, ae) があるので、同じ結晶で計算する場合はなるべく同じ文献の値を使います。

3. 計算式

 $BV = \sum_{i} \exp\left(\frac{r_0 - r_i}{B}\right)$

結合原子価和の例

```
MgO:
  Mg: 6 \times Mg-O(0.33) = 1.96
  O : 6 \times O - Mg (0.33) = 1.96
Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>:
  Fe(I): 4 \times Fe-O(0.85) = 3.40
  Fe(II): 6 \timesFe-O (0.41) = 2.45
  O: 1 \times O-Fe(I) (0.85) + 3 \times O-Fe(II) (0.41) = 2.08
MgIn<sub>2</sub>O<sub>4</sub>:
  Mg : 6 \times Mg - O(0.34) = 2.03
  In(I): 4 \times In(I) - O(0.51) = 2.05
  In(II): 6 \times In(II) - O(0.60) = 3.60
  O: 1 \times O-Mg(0.34) + 3 \times O-In(I)(0.51) + 3 \times O-In(II)(0.60) = 3.32
SrFe<sub>2</sub>As<sub>2</sub>:
  Sr: 8 \times Sr-As (0.23) = 1.96
  Fe: 4×Fe-As (0.94) = 3.76 (注: B, r_0 は Fe<sup>9+</sup> - As<sup>3-</sup> の値)
  As: 4 \times As-Sr (0.26) + 4 \times As-Fe (0.94) = 4.73
```

★★結晶構造を見るとき、大事なこと★★

- ・ 陽イオンの周りの陰イオンの数はいくつか(陰イオンの配位数)
- 陽イオンの周りの陰イオンはどのような多面体を作るか (配位多面体)

平面4配位、4配位4面体(テトラポッド型) 6配位8面体(両四角錐型)、6配位5面体(三角柱)など

- 陽イオンの配位多面体はどのようにつながっているか 孤立、頂点共有、稜共有、面共有
- 結合長はイオン半径で説明できるか
- 結合角は高対称多面体からどれだけずれているか
- ・ 陰イオンの周りの陽イオンの数はいくつか(**陽イオンの配位数**)
- ・ 特徴構造の次元(**層構造、柱・チャネル構造、孔・かご構造**)
- 局所的な電荷(ポーリング則を参照)

Why perovskite-type crystals exhibit high ε?



Structural instability by the sub-lattice structure Case 1: Unit cell is stabilized by B-O A ion is loosely embedded Case 2: Unit cell is stabilized by A-O

B ion is loosely embedded

For ideal cubic perovskite structure: Each ion makes just contact with neighbor ions if their ion radii satisfy

$$a = \sqrt{2} (r_A + r_O) = 2 (r_B + r_O)$$

 $t = \frac{r_A + r_O}{\sqrt{2}(r_B + r_O)} = 1.0$ Tolerance factor

For *t* apart from 1.0, the cubic structure would be distorted:

t	Lattice	Explanation	Example
>1	Hexagonal	Large $r_{\rm A}$ Small $r_{\rm B}$	BaNiO ₃
0.9-1	Cubic	Ideal contact	SrTiO ₃ , BaTiO ₃
0.71 - 0.9	Orthorhombic Rhombohedral	Small r_A in B ion interstitial	GdFeO ₃ (Orth.) CaTiO ₃ (Orth.)
<0.71	Different structures	Samll $r_{\rm A}, r_{\rm B}$	FeTiO ₃ (Tri.

Ferroelectrics

Kittel, Introduction to Solid State Physics, 8th ed (2005) p. 467

Temperature dependences for PbTiO₃



 ε diverges and discontinuously changes at the transition temperature (Curie temperature) $T_{\rm C}$, like λ : λ transition Feature of first order phase transition

T > T_C Cubic structure No spontaneous polarization T < T_C stabilizes ions displaced and lattice distorted => Spontaneous polarization Ba²⁺ • • Ti⁴⁺ Ba²⁺ • O²⁻

Ferroelectrics: BaTiO₃

Kittel, Introduction to Solid State Physics, 8th ed (2005) p. 471 三井利夫 編著、強誘電体(槇書店, 1969)



Sequential phase transition of BaTiO₃ *Kittel, Introduction to Solid State Physics, 8th ed (2005) p. 471*

Kittel, Introduction to Solid State Physics, 8th ed (2005) p. 471 三井利夫 編著、強誘電体(槇書店, 1969)



Sequential phase transition of BaT Kittel, Introduction to Solid State Physics, 8th ed (2005) p. 471

三井利夫 編著、強誘電体(槇書店, 1969)



Two types of ferroelectricity

強誘電体物理入門

Displacement type ferroelectric

Small displacement of ions form P_s

(Ions are bound by recovery force to the high-symmetric position)

Perovskite type crystals BaTiO₃, Pb(Zr,Ti)O₃



Order-disorder type ferroelectric

Ions find different stable positions in high-symmetry structure, hop to another site in a long distance

NaNO₂ : NO₂ group KDP (KH₂PO₄): H⁺

